

「原発依存社会への暴走」を加速させています。岸田政権は、「第7次エネルギー基本計画」の策定に着手しましたが、「脱炭素・AI時代に対応するために、原発・再エネの最大限活用」を進めるとしています。電事連

はいよいよ4日後となりました。6月9日には、大阪・うつほ公園にお集まりください。13年が経過し、世界が震撼した大惨事・福島原発事故を忘れ去ったかのように、また、本年1月の能登半島地震を教訓とせず、政府や関電は

は政府に「可能な限り原発依存度を低減させる」の文言を削除するよう求めるべく、今、電

# 6月9日 大阪・うつほ公園に大結集を! 午後1時から集会、御堂筋を難波までデモ

# 老朽原発 うごかすな! ニュース

第124号  
発行・老朽原発うごかすな!  
実行委員会

【連絡先】  
090-1965-7102

力会社の焦眉の課題は、満杯に近づいている使用済燃料プールに空きを作ることです。プールが満杯になれば、使用済核燃料の交換ができなくなり、原発を運転できなくなるからです。関電の高浜原発は、後3年と4か月ほどで満杯になる見通しです。焦った関電は、「使用済み核燃料のフランスへの搬出」「上関町での中間貯蔵施設建設調査」や稼働の見直しもない「再処理工場への搬出」を掲げ、その準備と称して、原発敷地内での乾式貯蔵を画策しています。さらに、来年40年超えとなる高浜3、4号機の20年運転延長を申請し、規制委員会は、5月29日にこれを認可しています。これで関電の稼働可能な原発7基のうち、5基が老朽原発となります。

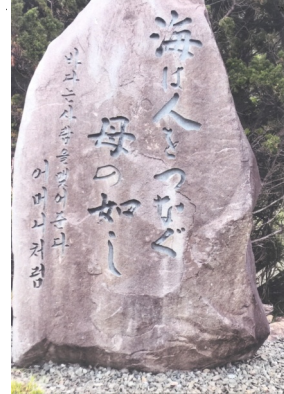
地裁は、美浜3号機差し止め仮処分裁判で、申し立てを全て棄却、却下しました。各地で起こされている原発賠償訴訟では、「国の責任」を認めないものがあります。司法の、電力会社や政府への追従には目に余るものがあります。

人の命や安全と引き換えに、原発産業にむらがり、利権をむさぼる原子カムラの悪行を

泊の集落へのチラシ配布が終わり移動のため車に向かっているとき、軽トラックが止まり、運転をしていた男性から声をかけられました。大森和良さんでした。

沖合に漂着しました。この船を発見したのが大森さんの曾おじいさんでした。わずか20数戸の泊村の住民が総出で救助活動を行い、救助された

これ以上許すことはできません。珠洲原発建設を止め、志賀原発再稼働を許さない行動が、人々を救いました。人の命や安全を守るには、人々の大きな行動しかありません。今こそ、原発を止めましょう。再度呼びかけます。6月9日はうつほ公園へ!



救助活動を行い、救助された

## 「海は人をつなぐ 母の如し」 小浜市の泊で

(老朽原発うごかすな!  
実行委員会)

人々が無事帰国までの8日間住民の家に分宿して過ごしました。別れの時、お互い「袖を絞るほどに」泣いて別れを惜しんだそうです。当時は、日清戦争(1894年~1895年)を経て、日露戦争(1904年~1905年)、韓国併合(1910年)に向かうという厳しい国際情勢でした。

大森さんたちは、2000年を前に泊の歴史を残そうと活動を開始し、その一環として『韓国船遭難救護の記録』という冊子を泊の歴史を知ることとして自費出版しました。

この本が韓国の新聞で紹介され、韓国との新たな交流が始まりました。また、『風の吹いてきた村』と言う絵本も出版されました。以降、コ

泊で(左から2人目が大森さん)



ナ禍まで、韓国の高校生や大学生、在日の韓国人団体、日本の高校生などとの交流が続いていたそうです。

25分ほどの立ち話でしたが、大変感動しました。大森さんから「がんばってください」と激励され、次のチラシ配布に向かいました。なお、「海は人をつなぐ、母の如し」は大森さんが建てられた碑文です。

今回、全くの偶然でしたが、大森さんと出会って、国境を越えた人と人とのつながりがいかに大事かを教えられました。人間はそもそも憎しみあう存在ではないと思います。困っていれば助けるのが自然だと思えます。様々なヘイトに何の意味があるでしょうか? 国家や民族を超えて原発や戦争をとめようと協力することの方が絶対大切だと思います。

『風の吹いてきた村』を是非検索してご一読下さい。

(城陽市

山口孝雄)

# 何が私をアメリカバデモに向かわせるのか 考えました...

若狭の集落や町から町へ、路地を巡り、時には山のふもと

の1軒を目指して、歩く、歩く。肩に原発のチラシが入ったカバンを担いで。チラシは木原さんが作成してくださっている。時宜にあった内容を次々と取り入れたもので、とても勉強になる。よく当初は「こんな字ばかりのチラシ誰が読むのか」と揶揄する人もあった。続けて10年。今では、チラシを待っている人がいる。

私は、どちらかというと農村や漁村に行くのが好きだ。新芽が芽吹く春、新緑眩しく田植えの時期の田んぼは美しい。夏はとにかく暑い、1日に何本もお茶を飲むが全部汗になる。秋の紅葉と頭を垂れる稲穂がお百姓さんの顔をほころばせる。冬は寒いけど歩き出したら体はホカホカ。漁村では魚をさばく人や、ワカ

メを干す人に出会う。潮の香りが好きだ。

時には出会う人と話をする。「ごころうさん。」「ありがとう。」「頑張ってください。」「などと言われることが多くなりました。やり始めたころは「帰れ!」

「お前も原発の電気使ってるやろ!」などと言われたものだが、最近はそのような人に出会うことはない。時には私を捕まえて話し込む人がいる。「原発はあかん。もうやめた方がいい。」「そして新聞やテレビで見た原発情報をいっばい話してください。気がついたら小1時間話し込んでいたこともあった。

私には何の力も自信もない。でも、自分の足を動かして、歩き回って、汗をかいて、時には出会う人から思いも

高浜町のピラ配りの途中で(5月26日、対岸右手に高浜2号)



よらぬ話を聞いて、驚きもし、共感もして、嬉しい言葉もいただいて。その経験が、私に何がしかの自信を与えているのかもしれないと思う。このような経験がなかったら、私には発する言葉さえなかっただろう。だから、行きますアメリカバデモ。自分でチラシが作れるようになりたいとも思うが、これからの課題だ。  
(若狭の原発を考える会 橋田秀美)

【注】アメリカバデモでは、訴えの音声を流しながらピラ撒きをします。